

■肢体不自由・知的支援学校における実践事例

マルチメディアDAISY図書を活用した 「聞く読書」活動

東京都立鹿本学園
高澤 昇太郎

はじめに

東京都立鹿本学園は、江戸川特別支援学校、小岩特別支援学校を母体校として、平成26年4月に開校した、東京都23区内で初めて義務教育段階（小・中学部）の肢体不自由教育部門と知的障害教育部門を併置する、2部門5学部で構成される新しいタイプの特別支援学校です。児童・生徒数は肢体不自由教育部門が176名、知的障害教育部門が197名の大規模な学校です。子どもたちの障害の状況はさまざまです。

マルチメディアDAISY図書を活用した「聞く読書」活動は、母体校であった旧東京都立江戸川特別支援学校（肢体不自由）での昨年度の取り組みから始まりました。平成26年度からは知的障害教育部門の児童・生徒にも呼びかけて全校で取り組みを進めています。

研究に向けた準備

昨年度に引き続き、iPad 1台とiPod 3台を整備し、マルチメディアDAISY図書の利用希望者に貸し出しを行い、貸し出しを行った子どもたちの保護者にアンケートの協力をお願いしました。

聞く読書（マルチメディアDAISY図書）アンケート

○をつけて 答えてください。

1 聞く読書は楽しかったですか。

4 _____ 3 _____ 2 _____ 1
たのしかった すこしたのしかった あまりたのしくなかった たのしくなかった

2 操作はかんたんでしたか。

4 _____ 3 _____ 2 _____ 1
かんたん すこしかんたん すこしむずかしい むずかしい

3 聞く読書をもっと使いたいと思いましたか。

4 _____ 3 _____ 2 _____ 1
つがいたい すこしつがいたい あまりつがいたくない つがいたくない

4 聞く読書を新しく作るとしたら、どんな分野のものがほしいですか。

自由にお書きください

5 その他、御意見がありましたらお書きください。

自由にお書きください

御本人または保護者の方が御回答ください。

子どもたちの保護者をお願いしたアンケート様式

校内活用を希望する教員には、「わいわい文庫」のCDを貸し出しました。

事例1： 障害が重い生徒の活用事例

本校の子どもたちが、iPadやiPodの使用を開始するとともに、大きな反響がありました。その一つは、肢体不自由教育部門中学部の自立活動を主とする教育課程の学習グループからでした。身体面にも知的にも重い障害を抱え、健康上もさまざまな課題がある生徒たちの保護者のみなさんは、最初は使用をためらいがちでした。そのような話を担任から聞き、「ぜひ使用してみてください。遠慮なさる必要はまったくありません」と、利用を勧めました。

その結果、一番のヘビーユーザーになってくださったのが、これらの学習グループの生徒たちでした。本校では1週間単位でお貸しすることになっていましたが、健康上の課題から必ずしもすべての日に活用していただくことがむずかしいこともありました。

しかし、保護者が書いてくださった連絡帳や感想カードからは、「聞いている時の表情がまったく違う」「とても楽しそうに聞いている」という記載がありました。これまでも家庭では、お子さんへの刺激を工夫していて、テレビ、DVD、CDの音楽など

も活用されていましたが、それらと比べてもiPadの聞く読書を活用した取り組みは、他の媒体よりも笑顔や発声が多く見られたとのことでした。

その後、「聞く読書」の効果は、同じ学習グループの保護者に口コミで広がりました。最初は、使用希望を出していなかったけれど、使ってみたいとの希望が集まり、お貸ししたすべての保護者から、お子さんが喜んで聞いている様子を聞くことができました。学習グループで行う国語の授業で教材に取り上げた内容、例えば『大きなかぶ』を聞いている様子を見ると、教材以外の内容とはまったく違う表情で聞き入っていたとのことでした。

また中途障害の生徒の保護者からは、障害が生じる以前は英語圏で生活していたので、英語の話のほうが反応が良いとのことでした。



学校での活用風景（休み時間）

事例 2 :

訪問教育の子どもの活用事例

訪問教育の子どもにも貸し出す取り組みを行いました。訪問教育の子どもは健康状態の関係から、他の生徒の2倍の2週間を1サイクルとして貸し出しました。体調面から、2週間の間に1日程度しか取り組むことができませんでしたが、子どもにとっては、とても楽しい1日になったという報告がありました。

事例 3 : 知的障害教育部門の子どもの活用事例

子どもの保護者からアンケートからは、読んでいる部分がハイライトされながら移動していくため、読みながら文字を追うことの練習になり、動体視力も上がり、とても良かったとのことでした。

事例 4 : 肢体不自由教育部門小学部の子どもの活用事例

子ども本人（1名）から聞き取りを行いました。

- ・マルチメディアDAISY図書を使って学習することは楽しい。
- ・字がきれいで読みやすい。
- ・読むところに色がつくので分かりやすい。
- ・ノンタンとホットケーキの話が好き。
- ・学校の授業でもっと使えたらうれし

いです。

- ・教科書がこれだったら、もっと音読の勉強をがんばれる。

以上のような感想を、子どもたち本人から聞くことができました。

事例 5 : アンケートから

41名の保護者のアンケートをまとめました。

問1 聞く読書（マルチメディアDAISY図書）は楽しかったですか。平均3.6

問2 操作は簡単でしたか。平均3.7

問3 もっと使いたいと思いましたか。

平均3.5

※点数は1～4の4段階（満点4.0）で評価。

以上のように、非常に高い評価をいただきました。さらに別の質問で、「問4 聞く読書（マルチメディアDAISY図書）を新しく作るとしたらどんな分野のものがほしいですか」という質問にはさまざまな意見をいただきました。主なものを以下に紹介いたします。

- ・日本昔ばなしのシリーズ
- ・カラフルな絵が多くある本
- ・生活（日常生活、あいさつ等）についての本
- ・効果音や抑揚を楽しむ本
- ・教科書として使われている絵本（一般図書）

今まで読み聞きしたことがある物語などを改めてマルチメディア

DAISY図書で聞くと反応がとても良いとの意見が多数寄せられました。保護者が、マルチメディアDAISY図書のタイトル数がさらに増えていくことに大きな期待をもたれていることがわかりました。

その他の意見として、ページが切り替わる際にタイムラグがあり少し気になること、もっと画面が大きければという意見を複数いただきました。変換アダプタを用意して、家庭のテレビに接続することで、子どもたちが操作を行って、家族と一緒にマルチメディアDAISY図書を見るという使い方も提案してはと考えています。

おわりに

本校独自の重度・重複障害のある子どもたちへの利用の工夫としては、当初想定されていた往復のスクールバス内でのヘッドホンなどを利用して聞く方法に加えて、小型のスピーカーを一緒に貸し出すことにしました。この工夫で、家庭での利用が一層しやすくなりました。

また視覚障害者仕様の読み上げ方より、伊藤忠記念財団が工夫してくださった抑揚を付けた読み上げ方のほうが、楽しめる生徒が多いこともわかってきています。

以上のように、重度・重複障害のある子どもたちへの有意な効果が見

られたことから、多くの生徒たちに機会を得られると考え、今年度より就学奨励費を用いて、高等部第1年次において、ICT機器としてiPadなどを購入できる制度の活用を進めました。伊藤忠記念財団及びICT機器の販売会社のご協力を得て、Voice of DAISY (VOD) とマルチメディアDAISY図書をプリインストールしたiPadを各家庭で本人用に購入していただき、授業で活用することを11月から開始しました。いまでは全高1対象生徒の約8割が購入しています。

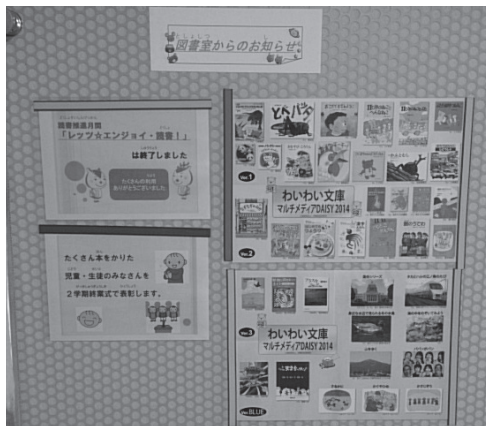
読書は、物語を知ることであり、人間にとっては高度な精神活動の一つです。食べることなどの生理的な欲求の充足とは異なる、心の充足を得られるのが読書です。

私たち特別支援学校の教員は、国語の授業で物語の楽しさを通して、言葉の美しさや楽しさを伝えるとともに、見通し＝因果関係を学べるように取り組んでいます。

伊藤忠記念財団のご協力により「聞く読書」を活用するチャンスを得たことで、私たち教員が指導する国語の授業の内容をより楽しい経験として受け止め、物語などの内容をより深く理解して楽しみ・喜ぶという高度な精神活動を、子どもたちが身につけていったことが改めて確認できました。

物語を楽しむことができることは、
外の世界への興味の始まりでもあります。
家族や親しい人とのかわりから、
一歩外へ踏み出すことでもあるのです。

そうした意味からも、2年間にわたって「聞く読書」の機会を本校に与えてくださったことが、子どもたちの世界を大きく広げたことになったと考えています。



学校図書館掲示版での「わいわい文庫」の紹介

